

笠建企第1703号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

岡山県笠岡市長

高 木 直 矢



今後の道路行政についての意見・提案について

平成20年9月19日付け国道企第37号により御依頼のありました標記のことにつきまして、別添のとおり回答いたします。

①道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

岡山県笠岡市

1 道路財源の確保

地方財政を取り巻く環境は、長引く景気の低迷による市税収入の伸び悩みと三位一体改革による地方交付税の削減などにより大変厳しい状況にある。そうした中で、行財政改革や財源の確保に積極的に取り組む、急速に訪れた少子・高齢社会や人口減社会への対応を始めとする新たな行政課題に取り組んでいかねばならない。そのような状況でも、依然として道路整備に對する要望は多くあり、また道路や橋梁などの維持管理経費も毎年増加傾向にある。このような市民からの道路整備の要望や維持管理に適切に對応するためにも、安定的な財源が必要である。道路特定財源が来年度から一般財源化されることが閣議決定されているが、地方の財政は大変厳しい状況にある中で、まだまだ生活道路として「真に必要な道路」整備と安全・安心して通行できる道路整備、そして維持管理を行わなくてはならない。また、地方の道路財源には過去の道路整備の起債償還も含まれている。このような地方の実情を考慮し、今後とも暫定税率を堅持し、道路予算を十分に確保していただきたい。

2 幹線道路の整備促進

現在、本市には片側1車線の国道2号の渋滞対策等として、昭和63年に事業化された笠岡バイパスの建設が行われており、今年3月に側道部が暫定供用開始された。その結果、朝夕の通勤通学時には国道2号現道の渋滞は生じている。地域活性化のためにも、一日も早い本線開通をお願いしたい。

笠岡バイパスは地域高規格道路の倉敷福山道路の一部であるが、東側の玉島笠岡道路と西側の福山道路がつながってこそじめて本来の機能が發揮されるものであり、遅れている地域高規格道路の一日も早い全線開通をお願いしたい。

地方では、まだまだ幹線道路の整備が遅れている。中国地方の高規格幹線道路のネットワーク等、道路網の一日も早い整備が望まれる。地方の道路、そして地方の生活圏レベルにおける中心都市と地域の結ぶ道路を結ぶ道路などのネットワーク等、道路網の一日も早い整備が望まれる。地方の振興を考えると、幹線道路の整備は地域の活性化に大きな影響を及ぼす。国において道路予算を十分確保していただき「選択と集中」で、真に必要な道路を完成時期を明確にしつつ早期に整備していただきたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

岡山県笠岡市

○現状	○課題
1 人口の減少と高齢化 本市の人口は、昭和27年の市制施行以来、近隣町村との合併により昭和35年には約7万5千人となったが、昭和50年以来、減少が続き、現在約5万5千人となっている。また、高齢化率も本市では、約29%となっている。 2 産業 笠岡湾干拓地では大規模営農による生産性の高い農業に取り組んでいる。工業においては、事業所数も減少しており、製造品の出荷額も伸び悩んでいる。 3 交通 山陽自動車道を利用することにより、各都市への移動時間が飛躍的に短縮され、生活圏、商圏の広域化が進んでおり、各地域からの幹線道路の整備及びインターチェンジ周辺地域の有効活用等高速道路のメリットを十分に生かすことが必要となっている。 国道2号は、中心市街地を東西に横断しており、7.8kmに及ぶ区間のほとんどが片側1車線の平面交差になっているため、交通渋滞が日常的となつており、約9.5kmで、改良率は71%、また市道の延長は、約1,277kmで、改良率は26%となっており、未改良の道路がまだ多くある。 平成18年度に実施した「市民意識調査」(18歳以上の市民3,000人を対象とした市民アンケート、回答率45.8%)の中では、40項目の課題の内、「道路網の整備」の重要度は9番目となっており、逆に満足度は31番目となっており、地区別にみると市街地では比較的高いものの、市街地以外では満足度が低くなっている。	1 人口減少の歯止め対策として、定住化促進に向けた取り組み 2 産業の振興(特に笠岡湾干拓地の大規模営農、港町工業団地への企業誘致)及び笠岡湾干拓地の有効活用 3 安全・安心に通行できる道路と市民に満足される道路網の整備 (1) 地域住民からの道路整備や道路維持管理に対する要望への対応 (2) 通過交通と生活交通の分離等による交通渋滞の解消・緩和 → 国道2号バイパスの整備促進 (3) 広域交通体系の確立に向けた高速道路、国道2号バイパスへのアタセス道の整備を始めとする幹線道路網の整備 → (県道) 井原福山港線、笠岡美星線、岡井里庄線等の整備 (市道) 美の浜入江線(現在 地方道路整備臨時交付金で整備中)

②ー２ 地域の目指すべき都市像

岡山県笠岡市

笠岡市の志向する都市像を一口で言うならば、『活力のある田園居住都市』ということである。このため市域の大半を占め、人口減少と高齢化が特に著しい農村部（市街化調整区域）の活性化を図ることを目的に、自然と調和した住宅や生活利便施設が建築しやすいようにしたい、との思いで、平成２０年度末を目標に線引き廃止に向けた法手続きを進めている。

良好な居住環境の条件として、自然環境もさることながら、通勤、通学等、日常生活の利便性に対する条件も大きな要素となる。すなわち、道路網の整備は必須となってくる。

幸いにして、本市は、山陽自動車道、国道２号と道路網の骨格である幹線道路が市内を貫通しており、それを基に道路網を形成し、近隣都市への交通を円滑にすることが可能である。

線引きを廃止して、恵まれた自然環境を生かした新たな土地利用活性化施策を講じるとともに、道路網の整備による日常生活の利便性を確保することにより、本市の最重要課題である定住化の促進が実現できると考えている。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例，期待する効果や評価）

様式 ④

岡山県笠岡市

○重点項目 都市交通の快適性，利便性の向上	○代表事例 国道2号笠岡バイパスと市街地を結ぶアクセス道路の整備	○期待する効果や評価等 笠岡中心市街地と笠岡バイパス（側道）・入江地区を連結する道路として市道美の浜入江線を整備している。現在は，笠岡中心市街地から笠岡バイパスへの接続は，普海岸線の幅員3～6メートルの道路を利用しているが，普通車のすれ違いが困難な区間もあり，特に朝夕の通勤・通学時には，渋滞するとともに危険な状態となっている。また近くにある市内有数の拠点病院である「笠岡第一病院」への緊急車両での搬送にも支障が生じている。この地方道路整備臨時交付金で整備している美の浜入江線が完成すれば，入江地区をはじめ大島地区，神島地区が結ばれ，そして中心市街地と笠岡バイパスが結ばれることにより，市民生活の利便性や安全性の向上につながるものと大変期待している。	○その他
			

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価）

○重点項目 地域活力の向上	○代表事例 国道2号笠岡バイパスの整備	○期待する効果や評価等 建設中の笠岡バイパスに面している1,191 haの農地を有する笠岡湾干拓地内には、現在、県内外の入植者の方が大規模営農として野菜の栽培を行っており、中でも畜産が大変盛んで約6千頭の乳牛と肉牛が飼育されている。その飼料は国外からの輸入が多く、水島港へ荷揚げしトラックにより運ばれている。さらに生産された牛乳は倉敷市内へ運ばれており、バイパスを利用することで輸送時間も短縮され、鮮度の高い牛乳の効率的な搬送が可能となる。 またドール欄が、現在約70 haの畑にブロッコリーを栽培しているが、今後100 haまで栽培面積を拡大する計画がある。 更には、干拓地には、「道の駅」の建設計画もあり、干拓地で生産された農作物の販売や地元の食材を使った特色あるメニューをバイパスの利用者へ提供することにより、「食の地産地消」の拡大が進み、また道路を通じた地域間の交流促進により、干拓地の活性化が図られるものと期待している。 また、バイパス沿いには約23.4 haの笠岡港工業団地用地があり、バイパスが完成することにより、アクセスの利便性向上から企業誘致の促進につながるものと期待している。 中小企業を中心とした地方産業は、倒産・縮小が相つぎ、停滞し明る兆しが見られない。 地域の活力を向上させるため、早期に地方産業の状況が快方へ向かうべく、必要な道路は早急に整備してもらいたい。 国道2号笠岡バイパスの早期の完成を地元は強く望んでいる。	○その他
------------------	------------------------	---	------



今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例，期待する効果や評価）

様式 ④
岡山県笠岡市

○重点項目 総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	○代表事例 交通弱者に配慮した交通安全施設整備	○期待する効果や評価等 老人，子供を交通事故から守るための施策について，住民からの要望は数多く，また根強いものがある。 本市では，番町地区等を「あんしん歩行エリア」に指定し，通学路で歩行者，自転車の通行が多いところを中心に，地元の方々と警察署と協力しながら防護柵の整備と自転車レーンや交差点のカラー舗装，「止まれ」標識の設置等を行った。子供たちは安心して通学することが出来るようになり，地元からは大変喜ばれている。 交通弱者を守るための交通安全施設設置については，国の補助基準の緩和並びに優遇措置が必要と思われる。	○その他
	 整備前	 整備後	

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例，期待する効果や評価）

様式 ④

岡山県笠岡市

○重点項目 計画的・効率的な維持管理や更新の推進	○代表事例 橋梁長寿命化対策	○期待する効果や評価等 昭和の高度成長期に造られた橋梁については今後，老朽化による改修時期を迎え，計画的に対応していかなくてはならないが，財政状況を考えると，大変厳しい状況にある。本市には，橋長15m以上の橋梁は50橋あるが，ほとんどの橋梁が建設から20年以上経過しており，橋梁の点検と長寿命化を図る修繕計画を早急に策定することが求められている。特に，隅田川1号橋は，昭和40年代後半の建設で40数年経年が行っているが，住民からも架替への要望が現在重量制限を行っているが，住民からの要望が出しており，市では計画を策定中である。市政負担を考慮しつつ，将来を見据え，計画的に対策を実施する必要がある。	○その他
-----------------------------	-------------------	---	------